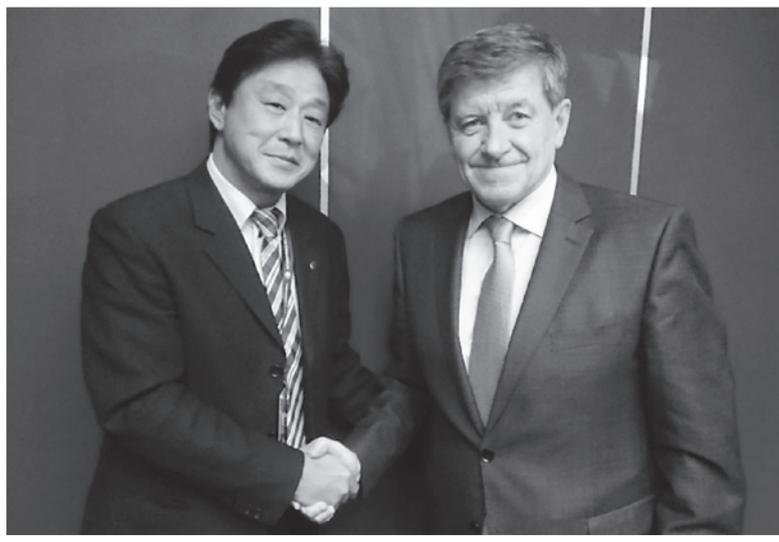




# 全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 竹内洋司／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271  
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

ガイ・ライターILO事務局長と握手を交わす村上直樹全消協会長



# 謹賀新年

輝かしい新年を皆様と共に迎えられることを、心より喜び申し上げます。

また、日ごろより、全消協運動にご理解と、そして力強いご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、昨年は日本最大の労働組合のナショナルセンターである連合が、「消防職員の労働組合を結成する権利に関する意識調査」を実施し公表しました。その結果、過半数の国民が「消防職員に労働組合を結成する権利を認めるべき」と賛成しています。また4月には、連合主催の「熊本地震から一年、大規模災害時における消防職員の活動と団結権の必要性」と題したシンポジウムが開催され、消防職員の団結権問題を主たるテーマに、国内での世論喚起の取り組みが行われました。

そして11月には、5年に一度のPSI世界大会がスイス・ジュネーブで開催されました。その大会2日目のパネルディスカッション「単なる雇用ではないー公共サービスにおける仕事の将来」では、ガイ・ライターILO事務局長と共に、パネリストとして登壇しました。全消協が抱える課題やこの間の取り組み、そして何より労働組合権の必要性について、全消協約1万3000人の代表として、全世界の仲間と力強く訴えることができました。

また、総務省消防庁に対しても、自治労組織内議員である江崎孝参議院議員のお力添えで、意見交換の場を設けていただきました。我々現場で働く者の立場からの意見を述べさせていただき、有意義な機会となりました。

全消協は、これらの取り組みから、今まで以上に自治労・連合や関係団体と、より強固な信頼・協力関係を構築するとともに、PSI活動を通じて、グローバルスタンダードである、すべての公務労働者の労働基本権回復にむけた取り組みを継続し、働く者の尊厳を守る活動をしていかなければなり

ません。そのためには、我々の声をさらに大きなものへとする必要がありま

あ

あ

あ

あ

あ

あ

全国消防職員協議会

会長 村上 直樹

# 第48回労働講座

〜活発なグループ討議で様々なことを学んだ2日間〜  
2017年12月8、9日の2日間、自治労会館6階ホールで第48回労働講座を開催。  
全国から67単協76人（未組織消防職場5人）が参加。

## 各講座の紹介

### 講座Ⅰ [組織強化・拡大]

吉村事務局次長・佐藤幹事

はじめに、村上直樹全消協会長が「労働講座は、消防業務に直接関わることの少ない部分も学ぶことのできる非常に有意義な内容。今後、皆さんが各単協に持ち帰って職場改善に繋げ、ここに集まった仲間と交流を深めてほしい」と主催者として挨拶した。

最後に、斉藤英之副会長が「様々な職場の状況を聞くことができ、それをどのように変えていくかを考えるきっかけになればと思う。悪いところは改善し、良いところはどんどん他へ広げていこう」と総括し、2日間の講座を終了した。

### 講座Ⅱ [賃金・労働条件]

大山幹事・中村幹事

全消協が発足した経緯、何故必要なのか、組織を結成することで職場環境がどうなるのかについて講義を行った。その後、グループ毎に各職場における職場環境について議論、全体へ発表し、それぞれの職場が抱えている問題等について共有した。

### 講座Ⅲ [男女平等]

西尾幹事

男女共同参画について、現状を確認するとともに、総務省消防庁が目標に掲げる女性消防職場の拡大に向けた消防本部の取り組みが不十分であることを説明した。女性の活躍には、今後さらなる整備が必要であり、様々な課題が山積している状況について学習した。

### 講座Ⅳ [女性連絡会活動報告]

青木女性連絡会代表  
福嶋幹事・仲野特別幹事

女性連絡会から、活動報告をはじめ、女性消防職場の現状や、現在抱えている課題についての取り組みなどを報告した。

### 講座Ⅴ [財政]

返町幹事・川上幹事

地方公共団体の財政の仕組みと消防財政との関係、地方交付税をはじめとする消防費の各財源の仕組み等について講義を行った。

### 講座Ⅵ [労働安全衛生]

山端幹事・本多幹事

消防職場における安全衛生、安全と健康の保全並びに環境の改善について、講義を行った。実際の改善例として、女性仮眠室の整備をはじめ、排気ホースの設置等を紹介した。また、職場内のストレスチェックの実施の必要性について説明した。そのほか、消防職場内のハラスメントの状況や対策等の課題については、学習会等でのより一層の取り組みが必要であることを学習した。



消防職員の賃金・勤務条件がどのような根拠に基づき定められているか、また、消防職員には労働者として当然の権利が付与されておらず、非常に制約された中で働いている現状について説明した。その上で、それぞれの問題点や改善に向けた取り組みの必要性を学習した。

国際連帯については、11月に開催されたPSI世界大会で、全消協として、日本の消防職場の現状や団結権の付与等の課題を、各国からの参加者に対し、強く訴えたことを報告した。



# PSI世界大会

## スイス・ジュネーブでPSI加盟組織から約1300人、全消協からは4人参加

2017年10月30日～11月3日、スイス・ジュネーブの国際会議センター(CICG)において、5年に一度のPSI世界大会が開催された。世界各国のPSI加盟組織から約1300人、PSI-JC日本団としては自治労をはじめ各産別から総勢43人が参加し、全消協からは村上直樹会長、竹内洋司事務局長、福山優花前女性連絡会北海

道幹事、仲野桂太特別幹事の4人が参加した。



大会期間中、2018-2022年行動プログラムや規約草案に対する加盟各国からの決議案・修正案について多くの議論がなされ、PSI-JC提出の第17号統合決議案「日本の公務員と韓国消防職員の労働基本権」および第37号統合決議案「公共サービスと公共サービス労働者の拡充で災害に強い社会づく

り」の提案については異論なく承認された。また大会2日目のパネルディスカッション「単なる雇用ではない—公共サービスにおける仕事の将来」では、村上会長がパネリストとして登壇した。このパネルにはガイ・ライダーILO事務局長も参加しており、活発な意見交換の中で、村上会長は日本の消防職員の現状や団結権の必要性を強く訴えた。大会最終日には、各加盟組織から様々な緊急決議案も提出され、すべて採決された。その後、デイブ・プレントイスPSI会長より閉会の挨拶があり、大会は終了した。

# PSI第30回世界大会に参加して

前全消協女性連絡会北海道幹事  
福山 優花 (北見消防協)

「世界は熱い！」私がこの世界大会に参加して感じたことです。

「日本の消防職員には団結権がない！」このフレーズは、誰もが知っていることだと思えます。私たち全消協は、この団結権回復に向けて日々活動していますが、いまだ実現に至っておりません。しかし、各国の発言の中に「消防職員に団結権を」とのたくさんの発言がありました。世界の人たちが私たちを支えてくれていることに感動し、胸が熱くなる思いでした。

また、若年労働セミナーにも参加し、未来を見据えた「質の高い公共サービス」に向けて行動しなければならぬという発言に共感し、日頃の消防業務において、市民の安心安全をより一層守らなくてはならないと思いました。

ためには若年労働者に対して、社会保障サービスの確立が必要不可欠となりました。

今回PSI世界大会に参加し、日本中に多くの労働組合の仲間がいることを再認識しました。今後も、各労働組合の仲間との意見交換などで交流を深め、視野を広げて協議会活動を行いたいと思います。決議案に対する全水道の提起の中にこんな一文があります。「施設の点検を行った職員が津波に襲われ尊い命を失うなかでも、自らの家族を残し、被災した住民への給水支援活動や復旧作業など休みなく行った」と。災害時は消防職員のみならず、仲間が色々なところで活動していることを忘れず、私の消防人生に生かしたいと強く思います。今回はこのような機会を与えていただきありがとうございました。



### 新規単協をご紹介します!

※「いちやりばちょうで」とは、沖縄の言葉で「一度会ったらみな兄弟」という意味です。



## 垂水市消防職員協議会

# 元氣な消防をめざします!

私たちは、2017年9月15日に、全国201番目、鹿児島県8番目の単協として、会員数40人、組織率100%で結成となりました。垂水市消防職員協議会です。垂水市は鹿児島市と鹿児島湾を挟んで対岸の大隅半島の西側に位置し、鹿児島県のシンボル桜島と唯一陸続きになっている人口約15000人の小さな市です。

私たちの所属する垂水市消防本部は単独消防として、1本部1署1分遣所、条約定数44人(内管理職2人)、現在実員42人で、住民生活の安寧の一端を担っています。協議会結成に至るまで、全消協

をはじめ、九州ブロック連絡協議会及び鹿児島県消防協、県内各単協並びに自治労鹿児島県本部、自治労関係者の皆様にも多大なるご支援ご協力をいただきました。また、全国各地の仲間の皆様からの激励歓迎のメッセージは、私たちを大変勇気づけるものとなりました。誠にありがとうございました。

私たちの職場にも、慢性的な人員不足を原因とした勤務体制問題を筆頭に、様々な問題が山積しています。学習会等を重ね、それらの問題を打開し、変えたいという職員一人ひとりの思いがひとつにまとまった結果、協議会結成という形となりました。

私たちは動き始めたばかりの協議会ではありますが、会員全員がひとつとなり、様々な問題に取り組み、民主的で風通しの良い消防職場を築いて、充実した住民サービスへ繋げていけるように頑張つてまいります。そして、元氣な消防をめざします。

まだまだ未熟ではありますが、これから垂水市消防職員協議会をどうぞよろしくお願いたします。消防の未来のために、共に頑張りましょう。

## 半鐘のこぼれ

8月末に全消協の役員となり、先日、半鐘のこぼれのコラム依頼を受けた。突然のコラム依頼に戸惑いながらも、全力で挑みます。

インターネットで「半鐘とは？」と検索。えっそこから、

そんなのです。全刀(こ)からなのですよ。半鐘とは、「火事、天災、泥棒などを知らせるために打つ鐘。青銅製で、寺院の梵鐘に比べて小さいため半鐘」とあります。

つまり、半鐘のこぼれとは、誰かが鐘を鳴らし、それをこぼさせる。故に私が鳴らす鐘は、今前述にて調べた通り、消防士として、一人の社会人として、「何でも知り、知ったうえで運用する」ことが大切と半鐘します。

日本人は先進国でありながら労働条件なんか気にしない文化があり、消防職場でも労働条件に対して、「これくらいしかたないやん」とか、「これはクレーン部分やな」とか聞いたことありませんか?

本来、日本国憲法に始まり、地方公務員法や市町村条例などで、地方公務員の労働条件は決められており、白か黒しかありません。

「ブレイヤな」といつか聞いたら、それはその人が調べる気がない。もしくは調べ方を知らないから、グレートという言葉でこまかしてしまっているだけなのです。でなければ、裁判で「これはクレーンです」という判決はありますか?

どういふのです。例えば、労働基準法に、特別休暇は暦日で付与とされていますが、あなたの職場は特別休暇を1日という単位で取得していませんか?

こつこつた取り扱ひ方法も、短年で異動となる公務員職場の総務課では、正しく統一されるまでに時間がかかったりする場合が多くあります。労働者は不利な扱いを受けたいためにも、人任せにするのではなく、常に自分で疑問を持つ習慣を持ち、納得いくまで調べた上で改善の必要なことには、自ら改善を求めていかないと、不利益を受けたまま働いていくこととなります。

何で調べたらいい? どうで聞いたらいい? 最後はとうとう処理をしたらいい? それを知るために消防職員協議会があるのです。単協、県消協で解決できなかったら、是非全消協まで困りごとをお知らせください。

最善の回答をお届けいたします。 大山剛史(東海ブロック幹事)

## 最新の全消協活動を配信中です

全消協 公式Facebook

全消協 ホームページ

ユース部 公式Facebook

女性連絡会 公式Facebook

ぜひ、アクセスや「いいね!」をお願いします。

次回、全消協学習会

第9回リーダーセミナー

3月9日(金)~10日(土) 場所 自治労会館

第1回ユースStep Upセミナー

3月9日(金)~10日(土) 場所 主婦会館プラザエフ